

止まり木



今年の漢字は!?

2022年の世相を表す「今年の漢字」に『戦』が選ばれ、世界遺産・清水寺で写真のように揮毫(きごう)されました。『戦』が選ばれるのは2001年にアメリカで同時多発テロが起こった時以来2度目となります。みんなはどんな一文字を予想したでしょうか?予想が当たった人はいたでしょうか? ”今年の漢字”は「日本漢字能力検定協会」が公募し、最も多かった一文字を選んでいきます。今年は『戦』が1万804票を集めました。ロシアのウクライナ侵略や北朝鮮のミサイル発射などの戦争の恐怖や不安のほか、新型コロナや物価高など生活に身近な戦い、サッカーワールドカップでの日本代表の熱戦などを理由に挙げる人が多かったようです。2位は安倍晋三・元首相に対する銃撃事件などを受けた「安」、3位は「楽」でした。



また、今年の漢字よりも少し早い時期に発表された2022年度の「新語・流行語大賞」では『村神様』が年間大賞に決定しました。「新語・流行語大賞」は1984年から自由国民社が実施している『新語・流行語大賞』を受け、2004年から現在の『ユーキャン新語・流行語大賞』に改称されています。今回は30の言葉の中から上位10語と選考委員特別賞の1語が選ばれました。みんなもよく知っている通り、プロ野球、東京ヤクルトスワローズの村上選手が今年も大活躍。史上最年少で三冠王を獲得。また、日本人最多本塁打の55本を1本超え、56本を達成するなどリーグ優勝に大きく貢献しました。まさにその活躍ぶりは神がかり的でそこから村神様と呼ばれるようになりました。それ以外でトップ10に入ったのはキーウ・宗教2世・てまえどり・きつねダンス・知らんけど・ヤクルト1000・国葬儀・スマホショルダー・悪い円安でした。また、選考委員特別賞には今年の夏の高校野球で優勝をした仙台育英高校・野球部・須江監督の優勝インタビューで語られた『青春って、すごく密なので』が選ばれました。キーウはウクライナの首都。ロシアのウクライナ侵攻を受け、ウクライナ語に基づく読み方に変更されました。きつねダンスはプロ野球・北海道日本ハムファイターズのファイターズガールによる応援ダンス。「The Fox」という曲に合わせて踊り、大流行しました。国葬儀は国費で実施される葬儀。首相経験者としては5年ぶりとなる安倍晋三元首相の国葬儀を実施しました。宗教2世は特定の信仰をもつ親や家族と、その教えの影響を受けて育った子ども世代のことです。知らんけどは主に関西地方で話の終わりに付けて断定を避ける表現。若い世代で流行しました。また、スマホショルダーは男女の幅広い世代で流行した、肩からスマートフォンを斜め掛けできるアイテムのことです。てまえどりは食品ロス軽減の観点から、スーパーなどで商品棚の「手前」から商品を選んでもらうようにする取り組みのことです。

ヤクルト1000はおなじみの乳酸菌飲料で効果を報告する投稿が相次ぎ品薄状態が続いています。今もスーパーではなかなか置いていません。悪い円安は歴史的な円安に伴う物価高に対する消費者感情を表した言葉です。このように今年1年の様々な世相が表れているように思います。みんなにとっての「今年の漢字」は何でしょうか?またどんな言葉が一番印象に残っているのでしょうか?振り返ってみてはどうでしょうか。

